

令和3年度 社会福祉法人 富山市社会福祉協議会 事業計画書

人口減少や少子高齢化が急速に進む中で、家庭や地域の支え合い機能が低下しており、地域においては、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯だけでなく、社会的孤立やひきこもり、虐待、困窮、介護や子育てへの不安など、多様で深刻な生活課題を抱える住民が増加しています。

さらに、昨年からの新型コロナウイルスの影響により、私たちの日常生活は大きく様変わりし、経済や雇用、貧困、自殺等の問題が顕在化しています。新しい生活様式に対応しながら、コロナ禍においても住民のつながりを切らすことなく地域福祉活動を進めていくことが求められています。

このような状況に対応するには、新型コロナウイルス感染予防に配慮しながら、人と人や関係機関相互のつながりを強化・再構築し、困難に遭遇しても孤立することなく、誰もが相互に役割を持ち制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて地域住民や多様な主体が、様々な困りごとを「我が事」として捉え、全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り高め合うことができる「地域共生社会」の実現を一層進めることが重要です。

本会では、昨年、5か年計画として「地域福祉活動計画」を策定し富山市の「地域福祉計画」とも連携を図りながら地域福祉を推進しています。

本年度は、その2年目にあたり基本目標である「市民協働による共生社会づくり」「福祉サービスの基盤強化」「安心・安全で暮らしやすい地域づくり」「市民の誇りづくり」を軸に、これまでの取り組みを評価・検証しながら地域の関係機関や団体・組織等との連携・協働のもと進めてまいります。

具体的には、今年度、新たに福祉後見サポートセンターを「中核機関」と位置づけ機能の充実を図り、成年後見制度の更なる利用促進を図ります。また、地域の担い手を養成する「生活支援ささえあいサポーター養成講座」の開催や地域食堂、子ども食堂の運営を支援する「地域食堂等支援事業」を実施し、地域福祉活動を支援します。

生活に困窮する世帯等に対しては、これまで以上に援助を必要とする人に寄り添い、伴走型支援を行うとともに「生活福祉資金貸付事業」や「生活困窮者自立支援事業」等により相談・支援体制の強化を図ります。

さらに、ボランティアセンター公式LINEを開設し、講座や助成金情報等を発信するとともに、登録ボランティアの活動発表の場としてSNSを活用しボランティア活動を支援します。

また、経営改善計画の推進により、自主財源の確保や事務事業の改善、組織のスリム化による経費節減を図り、自主・自立的な事業主体として、効率的・効果的な福祉サービスの充実に努めます。

今後とも、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けれるまちを目指し、関係機関と連携し地域福祉を一層推進します。

令和3年3月

社会福祉法人富山市社会福祉協議会
会 長 野 尻 昭 一